

令和6年度第2回佐伯市総合教育会議議事要旨

1 日 時 令和7年1月22日(水)15時～17時18分

2 場 所 さいき城山桜ホール 小ホール

3 出席者(会議の構成員)

佐伯市長 田中 利明 教 育 長 宗岡 功

教 育 委 員 平井 國政 教 育 委 員 藤崎 郁

教 育 委 員 廣田 有加

※山口 清一郎教育委員は欠席

(関 係 課)

【教育委員会】

教 育 部 長 久々宮 克也

(事 務 局)

総合政策部長 植田 実

【政策企画課】

課 長 末永 健二 総 括 主 幹 久保田 博士

副 主 幹 出納 達哉 主 査 大司 磨莉

4 要旨

次第 1 市長あいさつ

市長	(開始 15 時) ・佐伯市総合教育会議は、平成 27 年度から始まり、今回で 18 回目。 ・本市の第2次佐伯市総合計画では、『人が学び、人が活き、人が育つ教育の創生』という教育目標を掲げ、着実に人材育成を進めている。 ・しかし、その根幹となる多層的な目標をどのように構築し、「佐伯人(さいきびと)」をどのように育成していくかが課題である。 ・本市は少子高齢化が進んでおり、市制施行 20 周年を迎える今年は、当時の 8 万 5 千人から 6 万 5 千人へと人口が減少した。この 20 年間で 2 万人もの減少は、大変憂慮すべき事態である。 ・しかし、重要なのは、これからの時代に求められる『人の質の向上』という課題に、私たちがどのように向き合うかということ。 ・世界では、一人の優れた人材が世界を動かす時代になった。一方で、私たちの日常生活においては、地域を愛する心、すなわちシビックプライドがますます重要になってくると考えている。多様化が進み、価値観が混迷する現代において、シビックプライドをどのように育むかが問わ
----	---

市長	れている。 ・昨年 10 月、私は佐伯経済クラブの講演会で、素晴らしい教育者であるバイマーヤンジンさんと出会った。チベット出身の歌手でありながら、多くの学校を設立し、日本からチベットの教育に支援を行いながら、日本国内においても教育活動に尽力されている。 ・経済界の方だけでなく、皆様にもバイマーヤンジンさんのお話を聞いていただきたい。 ・多文化共生が求められる今こそ、生きた多文化教育を実践されている方から学ぶことで、私たちが目指すべきシビックプライドの本質が見えてくるのではないか。 ・私は、お会いした方には必ずサインをしてもらうようにしているが、先ほど、バイマーヤンジンさんから、『教育は幸せへの近道』という言葉いただいた。常に不満を抱き、社会や自己を批判するだけでは、幸せにはたどり着けない。心の豊かさこそが、幸せへの道を開く。そして、心の豊かさを育むのは「教育」である。 ・バイマーヤンジンさんの言葉をぜひ皆様にも深く受け止めていただき、本日の議題である「多文化共生社会と学ぶことの重要性」について議論を深めたい。 ・講演後は、各委員から 忌憚のない御意見を伺いたい。
次第 2 議事 多文化共生社会と学ぶことの重要性について 講演 「日本とチベット 異文化を超えて」	
バイマーヤンジン氏	・チベット出身、日本に 30 年間住んでいる。 ・今日はチベットの民族衣装を着て講演。 ・自身のふるさとチベットの生活環境について説明、標高や気候の厳しさを語る。 ・チベット牛との共生や、牛の重要性について述べる。 ・学校に通う子どもたちの日常の一部を紹介し、教育の重要性を強調。 ・日本に来てからの生活や家族の影響を語り、教育への意欲を表明。 ・大学進学の実験や、民族差別の体験を説明。 ・日本とチベットの文化の違いや日本の教育制度の素晴らしさについて触れる。 ・子どもたちの未来を考え、自身が行っている教育支援の取組を述べる。 ・多文化共生を研究するため、大学院進学を目指していることを報告。 ↑ 講師、チベットの民族衣装を着て講演

バイマー ヤンジン 氏	  ↑ 講師のふるさと・チベットの風景 ↑ 講師が支援した学校の開校時の様子 (出展:講師スライド資料)
次第 3 意見交換	
平井 委員	・チベットが遠すぎてピンと来ないが、感覚的にチベットが中国というイメージがないため、どうしても結びつかない部分があった。 ・ダライ・ラマ法王はとても有名。チベットはダライ・ラマ法王で成り立っているようなイメージがある。
バイマー ヤンジン 氏	・チベット自治区をはじめ、チベット人の居住地域は日本の6倍ほどの面積があるが、現在その地域は中国が統治している。 ・チベット民族の生きる価値観は全てチベット仏教の教えに基づく。 ・そのチベット仏教の最高指導者が、ダライ・ラマ法王。 ・チベット民族は信仰心が非常に強く、熱い。 ・日本にも信仰があり、信仰心は民族の支えであると強く思う。
平井 委員	・チベットの言語はチベット語で、中国は北京語などか。
バイマー ヤンジン 氏	・中国語は北京語以外にも上海語・福建語など方言がたくさんある。 ・チベットは文字も言葉も中国語とは異なるので、こういった文化を守っていくのも我々の役割だと思っている。
平井 委員	・例えば、北京に就業や就職したいと思ったら、言葉の勉強からするのか。
バイマー ヤンジン 氏	・その通り。私が小学校へ入ったときは、ちょうど文化大革命の時期で、チベット人の先生がいなかった。民族問題などで、学校ではチベット語を学べなかった世代だ。
廣田 委員	・貴重なお話を聞かせていただき感謝する。率直に聞いた感想は、日本とチベットとの違いである。 ・私も今子育てをしているが、環境が日本と違うということ、国によって文

廣田 委員	化が違うということを映像やお話を聞きながら考えさせられ、身に染みた。今日は勉強になった。
藤崎 委員	・すごくパワフルで、ピュアで、久しぶりに心が洗われる講演を聞かせてもらった。 ・どちらがお名前で、どちらが姓か。バイマーさんか、ヤンジンさんか。
バイマー ヤンジン 氏	・チベット人には名字が無い。日本のような名字はなく、名前だけ。 ・バイマーヤンジンが名前。長いので、ヤンジンだけでもいいし、バイマーだけでも良い。
藤崎 委員	・純粹でひたむきな方だと思った。 ・色々なものに感動したり、ありがたいと思ったりする気持ちがいつも根底にあるように思う。 ・モンゴルの看護教育を応援している知り合いが関西にいるが、その方と同じようなメンタリティー。 ・国を超えて人を育てることをしている方はこういう方なんだと思った。 ・まだまだ先の長い人生で、多くの人の学ぶチャンスや生きる可能性を広げる手伝いをされるのだらうと思っている。 ・私にも何かできることがあれば、少しでもお役に立ちたいと思わせていただいた。
バイマー ヤンジン 氏	・日本に来たときに、この国で生きていけるのか不安があった。正直心のどこかでダメなら帰ろうと思っていたし、実際色々なことがあった。 ・日本でこんな幸せに生きられたのは、日本の親が私を受け入れてくれたことにある。とても感謝している。最初は心の中で戸惑っていたと思うが、受け入れてくれて、私が努力する場を与えてくれた。 ・その有り難さを感じ、頑張ろうと思った。親が常に見守ってくれたので、今まで歩いてこられた。これからも恩返ししていくつもりだ。 ・これをきっかけに「受け入れることの大切さ」も学んだ。
宗岡 教育長	・チベットの大地を想像させる素晴らしい歌で感動した。 ・旦那さんが大学で声をかけたところ、いじめに遭っていて、救われたというところに感動した。 ・私自身 65 歳になるが、山の中の 4 件しかない集落で生まれて、隣の集落とは 1 キロぐらい離れていた。 ・今の子どもたちは自然と触れ合うことも無く、豊かな経済のなかで育ち、教育が当たり前になり、教育を受けることや自然と触れあう機会が無くなっていることに寂しさを感じている。 ・学校現場はブラック職場と揶揄されることもあり、先生になろうという思

宗岡 教育長	いを持っている人が少なくなっている状況である。 ・先ほど、日本の教育制度は素晴らしいと言ってくれて、なんとか取り戻したいと思っているが、ヤンジンさんから見て、日本の若者や教育を肌で感じ、一言物申すところがあればお聞かせ願いたい。
バイマー ヤンジン 氏	・息子が就学年齢になってから、日本の学校と深く接するようになったが、日本の教育現場で先生方の情熱が少し足りないと感じた。 ・先生方は常に子どもと親に気を遣い、何事も無いように無事に一日を過ごそうとしていて、本当に苦しい思いをされているんだと強く感じた。 ・大阪市内にある息子の中学校・高校は立派な若い先生が多かったが、いつも恐縮していて、日本人独特の遠慮というか、気遣いはいいが、教育現場でも何かに怯えているように感じた。「あなたの息子のここがダメだ」と言われたほうがスッキリする部分もあった。 ・“親も先生も子どものため”“子どものためというのは日本のため”でもあるから、はっきり言ってくれたほうがいい。 ・大学でもパワハラやプライバシーを強調しすぎている気がする。 教授が勉強のことで学生の携帯電話に連絡したら、その学生からは「私の許可も得ずに直接電話してくるなんて！プライバシーの侵害です」と言われ、その教授は謝っていた。これは行き過ぎだと思う。 ・教授から用事があって電話してくださったことには感謝すべきで、こういう風潮をどこかで止めなければ、社会全体がおかしくなる。 ・この状況なら、先生方の情熱がなくなるのも分かる気がする。 ・怒られても、その中に愛情があれば、小さい子どもでもわかる。愛情を持って接すれば、子どもには通じると私は信じている。佐伯市から立て直しましょう。
久々宮 教育部長	・今日は素敵なお話だった。 ・好きな言葉があって、第2次世界大戦で世界中が国を立て直すときに、イギリスのマーガレット・サッチャー首相が、金持ちを貧乏にしても、貧乏な人は金持ちにならない、だから国を建て直すためには教育が必要。そうして教育を充実させて国を建て直した。 ・ヤンジンさんが学生の頃にいじめに遭っていて、そこから立ち直る術の話を聞くと、心の中にふるさとがあって、家族愛があって、兄弟愛があって、乗り越えられてきたのが伝わってきた。 ・今の日本人に求められているのは、心の回復力だと思う。レジリエンスともいうが。 ・最近の日本は子育ての段階から、失敗がないようにしようとしている。 ・日本のことわざに、「可愛い子には旅をさせよ」とあるが、小さな失敗をさせながら、それをどう乗り越えていくか、徐々に学んでいながら、自力で立ち直っていく。

久々宮 教育部長	・そういう教育が必要で、そのためのバックボーンとして、我々は自然の充実した佐伯のふるさとの良さや、家族や先生以外の第3の大人の関わり方によって、子どもたちの心を豊かにしていくことが、私たちが目指しているところである。 ・家族のあり方や弟さんの思いなど非常に感動した。 ・今の子どもたちは人間関係を作るのが下手になっている。地域教育力を上げていきたいという風に感じているので、その辺の思いを共有できたらと思っている。
バイマー ヤンジン 氏	・家族がひとつの小さな社会でもある。 ・今、日本の子育てで危惧しているのは、核家族化で夫婦だけで子どもを育てていることと、周りがなんでも褒めて育てようとしていること。 ・子どもはあまりに褒められて育つと、社会に出て思うようにいかないと、すぐやめてしまう。そんな甘いものじゃない。 ・自分の息子には日本とは違う育て方をした。 ・私はチベットという厳しい環境に生まれ育ったので、息子にもその生活、家族、信仰を感じてほしくて、生後9か月目からチベットに連れて行った。 ・9か月のときは泣きわめいて、誰にも懐かなかった。翌年連れて行っても、やはり嫌がって、御飯もあまり食べようとしなかった。 ・3歳になる直前に連れて行ったときに、チベットの母親に抱きついて、ほっぺにチューをした。これにはとても感動した。家族は血が繋がっていても、常に接していなければ、その関係は希薄になる。絆というのは常に接して、互いに思うことから生まれると強く思った。 ・子どもはこういう風に育つものだと言った。どんなに嫌がっても何度も何度も接している中で、愛情を感じ、子どもの中でも優しい気持ちで育まれていくんだと感じた。 ・子どもはひとりしか授からなかったが、子育てという貴重な人生経験ができて、本当によかったと思う。 ・息子はもう大学生だが、週に3回はテレビ電話をして、互いに関心と愛情を持ち、励ましあいながら過ごしている。 ・親が愛情を持って接すれば、必ず子どもに伝わる ・それは地域でも行政でも変わらないと強く信じている。
市長	・バイマーヤンジン氏へ感謝の意を述べる。 ・異文化の違いを持ちながらも、日本的な魂に共感を覚えるバイマーヤンジン氏の存在は、我々にとって非常に大きなものである。 ・皮膚を切れば誰でも赤い血が流れるように、我々は皆同じ人間である。 ・環境や宗教、言葉の違いがあっても、それを乗り越え、人類普遍の原点を体現されているバイマーヤンジン氏の言葉は、我々の心に深く

市長	響いた。改めて感謝申し上げる。 ・佐伯市では1777年に藩校「四教堂」が設立され、武士だけでなく庶民にも広く教育の機会を提供し、識字率の向上に努めてきた文教の町である。 ・この伝統に自信を持ち、先生方が誇りを持って子どもたちを育て、世界に羽ばたく人材を輩出する、そのような志を持つことが大切である。 ・さいきオーガニックシティの本質は教育にある。教育こそが、我々の民族の力、日本の底力である。 ・チベット出身のバイマーヤンジン氏が語る世界は、我々が失いかけていた自信を取り戻す大きな力となるだろう。 ・この機会をさらに生かしていけるよう、今後の活動に繋げていきたい。 ・チベットの繁栄とバイマーヤンジン氏の今後の御活躍を心より祈念し、すべての議事を終了とする。 (終了 17 時 18 分)
----	--